

【個別の指導計画 例 1（中学校：通知表としても活用）】

個別の指導計画

作成日 令和 年 月 日

作成者

氏 名		指導期間：令和 年 月～令和 年 月
学年・組	年 組	評価期日：令和 年 月 日
本人・保護者の願い（日常生活面 教科面 進路や将来の夢等）		
長期重点目標（1年） ① ②		長期重点目標とのつながりや、合理的配慮の内容を踏まえた指導・支援となることに留意します。
具体的な指導・支援の方法 ①に関しての指導・支援方法を記入 ②に関しての指導・支援方法を記入		

教科・領域	長期目標	短期目標（前期・後期）		指導方法・手立て	評 価 A:よくできた B:ほぼできた C:もう少し
		前期	後期		
国語					
社会					
数学					
理科					
音楽					
美術					
保健体育					
技術家庭					
外国語					
特別の教科 道 徳					
総合的な 学習の時間					
特別活動					
自立活動					
生活単元 学習					
作業学習					

総合 所見	前 期	後 期

【個別の指導計画 例２・・・前期後期２回に分けて】

個別の指導計画（プロフィール）

氏名		記入日	記入者
学年 組			
障害の の状況 等			
保護者 本人の 願い			
合意形成 をされた 合理的配 慮の内容			
家庭・ 地域の 様子			
関係 機関 等			
児 童 生 徒 の 様 子	認知・学習		
	運動・動作		
	コミュニケーション・社会性		
	生活習慣		

個別の指導計画＜前期＞

作成日 令和 年 月 日 作成者

氏 名		指導期間：令和 年 月 ～ 令和 年 月	
学年・組	年 組		
長期目標（一年間）			
教科・領域	各教科等の学習の記録		
	目標	指導方法・手立て	評価
国 語			
社 会			
算 数			
理 科			
生 活			
音 楽			
図画工作			
家 庭			
体 育			
外国語			
特別の教科 道 徳			
外国語活動			
総合的な 学習の時間			
特別活動			
自立活動			
日常生活の 指導			
生活単元学習			
総合所見			

【個別の指導計画 例3（小学校2年生後半に外部機関の助言を受け3年生からスタート）】 [年 月 作成]

児童氏名		A		学年	3年	入級日	令和 年 月 日	担当者氏名
指導方針				指導時間				
◎余分な刺激を取り除き、情報量を調節し、注意を喚起すること等により、集中しやすい状況をつくる。								
◎指示は一つずつ、簡潔に、理解できたかを確認してから活動に移るようにし、見通しをもって意欲的に取り組めるようにする。								
◎作業量を軽減し、学習活動に取り組みやすくする。								
◎活動に対する行動目標を立て、できている状態をほめることにより、自尊感情を高めながら、落ち着いた行動をとれるようにする。								
◎学級の役に立つ仕事の遂行等を通じて、自尊感情を高められるようにする。								
長 期 目 標				通常の学級・家庭での配慮				
生活	①使った物を所定の場所に片付けることができる。 ②リストに記入された物を忘れずに準備することができる。			・きれいに整頓された状態の、写真や絵カードを提示する。 ・持ち物リスト等の確認ができるよう支援する。				
学習	③話し手に視線を向けて、注意して聞くことができる。 ④2年生までの漢字が書け、3年生までの漢字を読むことができる。 ⑤苦手とする教科でも、学習活動に参加し、課題に取り組むことができる。			・名前を呼んで、注意が向いてから話す。 ・漢字の書き方は、言語化して示す。 ・活動の順序を示し、一つ一つの活動に対し、その都度評価する。 ・作業量を減らし、負担を軽減する。				
行動・情緒	⑥予定の時刻になったら、活動を切り替えることができる。 ⑦納得できなかったり、苛立ってきたりしたら、教師に伝えることができる。			・切り替えにくさが予想される活動は、事前に約束し、掲示し、予告する。 ・成功体験も含めて、振り返りの話し合いをする。 ・失敗体験に関しては、どうすれば良かったかを、具体的に教示する。				
社会性・対人関係	⑧友達に対して、適切なコミュニケーションをとることができる。			・学級全体で、学活や道徳の時間を使い、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、そのスキルを行動目標とする。 ・休み時間毎に、友達との関わり方に関する行動目標を与え、その都度振り返りをする。				
自己理解	⑨自分の気持ちの変化に気づくことができる。							
長期目標との関連	短 期 目 標			手 立 て 無印：共通、（通）：通級指導教室、（在）：在籍学級				評 価
①	・声をかけられたら、使った物を所定の場所に片付けることができる。			・使った物を片付ける時間を確保する。 ・片付ける場所に品物のマークを付ける。				
④	・2年生までの漢字を読むことができる。 ・2年生までの漢字を書くことができる。			・（通）似ている漢字から、正しい漢字を選ぶ活動に取り組む。 ・漢字の1画毎を言語化（縦、横、かぎ、はね等）したり、既習の漢字や文字を使ったりして、漢字のつくりや書き方を教示する。 ・書き方の順序が間違っている、形が正しいことを評価する。 ・ドリル的な学習は、作業量を減らす。				
⑤	・学習に必要なことを、プリントやノートに書き込むことができる。			・ワークシートを利用し、書く作業量を減らす。 ・板書を写すときは、書くべきところに印を付けたり、近くに板書の手本を提示したり、ゆっくり読み上げたりする。 ・活動に参加しているときは、頻繁にほめる。				
⑦	・苛立ったときに、冷静になるための行為をとることができる。			・苛立ちやすい場面になる前に、あらかじめ、先生に言う、深呼吸をする、水を飲む、顔を洗う等、冷静になるための対処方法を伝えておく。 ・必要に応じ、冷静になるための行為を促す。				
⑧	・休み時間毎に、自己評価により、友達となかよく遊べた時には得点を付けることができる。			・（在）休み時間が始まる前に、行動目標を確認し、仲良く遊べたときには、シールを貼って賞賛する。				

() 組 幼児氏名 〇〇 〇〇〇 さんの 個別の指導計画					
生年月日 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生 〇才 : 入学年月日 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日					
◇生育歴					
◇支援が必要だと思われる状況					
◇これまでの取組					
◇他機関での支援					
「～ができることが増える」「楽しむことができる」という目標では評価ができません。「何が、どのくらいできるようになればいいのか」具体的で、客観的な評価が可能な内容にします。					
本年度の目標 (〇〇年度)					
短期目標 (〇〇年度 ◇月～□月まで)					
	現 状	目 標	主な支援方法・内容	経過 (記入日記載)	評価と課題 (記入日記載)
健康	【項目例】 ・遊び ・清潔 ・衣服の着脱 ・食事 ・排泄 ・睡眠 等		合意形成した合理的配慮の内容を踏まえた支援方法・内容となるように留意します。		支援を継続するのか、修正した方が良いのかも記入します。
人間関係	【項目例】 ・人間関係 (遊び・集団行動) ・主体的な活動 ・思いやり 等				
環境	【項目例】 ・動物への関心 ・数量や図形への関心 ・標識や文字への関心 等				

() 年 () 組 生徒氏名 〇〇 〇〇〇 さんの 個別の指導計画					
生年月日 〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生 〇才 : 入学年月日〇〇〇〇年〇〇月〇〇日					
◇生育歴					
◇支援が必要だと思われる状況					
◇これまでの取組					
◇他機関での支援					
「～ができることが増える」「楽しむことができる」という目標では評価ができません。「何が、どのくらいできるようになればいいのか」具体的に、客観的な評価が可能な内容にします。					
本年度の目標（〇〇年度）					
短期目標（〇〇年度：◇月～□月まで）					
	現 状	目 標	主な支援方法・内容	経過（記入日記載）	評価と課題（記入日記載）
生活面	【項目例】 ・コミュニケーション ・人間関係 ・整理整頓 ・清掃 ・部活 ・余暇 ・家庭 等	合意形成した合理的配慮の内容を踏まえた支援方法・内容となるように留意します。			支援を継続するのか、修正した方が良いのかも記入します。
学習活動面	教科等の学習場面における本人の困難さについて、具体的に記入します。				
その他	【項目例】				